

こどもがしるべき

ピレモンへの

ピレモンへのは、パウロがローマのにされたとき、コロサイのピレモンへったのです。ピレモンというは「される」をしますが、のり、なとをったでした。ピレモンは、パウロがエペソとツラノでしていたときにをけて、のをとしたでした。（19:9-10、ピレモン1:2､5-7）

ピレモンへのは、パウロの14あるのでもいですが、ピレモンのオネシモを、もうりかえすためにかれました。オネシモは、にをしてげたのですが、をいてキリストのになりました。のローマによれば、げたは、になり、したもをけることになっていました。だったオネシモは、してのきをすることができませんでした。そのようなオネシモをけたパウロは、ピレモンにをいて、しをめました。パウロのように、キリストにあって、ではなく、としてオネシモにしてくださいとすすめました。

をしたオネシモをとしたパウロのように、のえにってオネシモをしたピレモンのように、イエス・キリストがとでんでいたたちをかしてくださいました。また、たちをのでなく、キリストのとしてくださいました。

12、イエス・キリストをしていをされたのみにのりをしましょう。そして、クリスマスをして、いであるイエスのをしながら、サタンのになっているをかすのをしましょう。